

中国の珠海国際サーキットで年3回開催される「パンデルタ」は二輪・四輪のさまざまなレースで2日に渡って繰り広げられる人気のレースだ。バイクは1,000ccと600ccの混走で行なわれる

[text & photo] 横田和彦

[photo] 相澤清晃(番匠屋)



◎中華人民共和国の珠海市にある全長約4.3kmという富士スピードウェイに匹敵する規模を誇る珠海国際サーキット。直線とタイトなコーナーを組み合わせたスタート＆ゴールのレイアウト。アジア選手権なども開催される。

◎日本や香港からの応援団スタンプに囲まれてスターティンググリッドに付く木村幹也選手。グラウンドスタンドに多くの観客の姿が見える。



◎グラウンドスタンドの裏ではレッドブルやアウディ、ミシランのブースや、多くの飲食店が展開しており、多くの若者や家族連れで賑わっていた。



## 中国で行なわれたイベントレースで2ヒートで日本人が表彰台に!

◎コースは全面フラットに近く、コーナーにはほとんどカント(傾斜)がないこともありスリッピー、ハイバウナリーなコーナーが連続して、アクセル操作に気をうかう。



◎ヒート1での優勝はカワサキを駆るカナダ人のタン選手。ヒッタリ追うのはチャイナ・スーパーバイクチャンピオンの黄選手。ヒート2では黄選手が優勝した。



◎レースの合間に行なわれたエクストリームショー。日本同様人気が高くて、トリックのたびにスタンドを揺るがすような歓声が響く。四輪のドリフトショーも開催されていた。



◎日本からのスタッフや応援団、現地サポートスタッフ全員で記念撮影。日本人を中心としたチームだったが現地での人気も高く、みなフレンドリーに接してくれた。



◎プレッシャーに打ち勝ち、ヒート2では見事2位表彰台を獲得。パンデルタでの自己最高位ということもあり充実した表情だ。チャンパンの味は格別だに違いない。



◎岡林選手が無念のドクターストップになってしまったので、チームや応援団の期待を一人で背負うことになった木村幹也選手。レース前には監督やスタッフが気づかうようすも見られた。

### 日本以上に盛り上がる中国のレースシーン

近くて遠い国、中国。ことモータースポーツに関してはどのようなことが行なわれているかあまり知られていない。広東省の南部、マカオに隣接した珠海市にある珠海国際サーキットでは年に3回「パンデルタ」という二輪四輪同時開催のイベントレースが開催されている。アマチュアレースながらラッピングバスが市内を走るなどの盛り上がりを見せる。観客数も多く、ピットウォークやTV中継も行なわれるほど。地域によって多少異なるようだが、中国ではスポーツバイクはサーキットでしか見ることができない特別な乗りモノ。多くの人がこのイベントレースを楽しみにしているようだ。

そのパンデルタ最終戦のスーパースーパーバイククラス(1000cc)にてTEAM JPPより岡林選手(YZF-R1)と木村幹也選手(GSX-R1000)の2名がエントリー。岡林選手は予選で自己ベストを叩き出すもハイサイドで転倒。決勝レースはドクターストップという残念な結果になってしまった。木村選手は予選でクラス3位となり決勝レースに挑む。そしてヒート1では3位、ヒート2では2位表彰台を獲得と、見事結果を残した。

異国の地で日本人選手が表彰台に上がることは感慨深い。折しも日中関係が微妙な時期でこの日も反日デモが各地で起きた。しかしサーキットには不穏な空気は一切なく、ライダーやチームは多くの観客から歓迎され拍手が送られた。モータースポーツの底力を感じた1日だった。